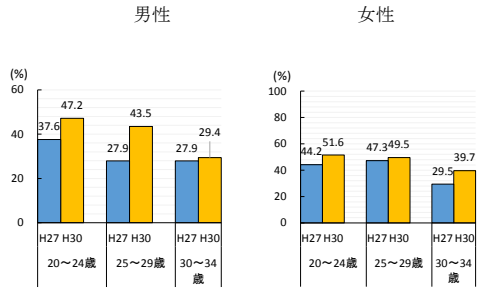


結婚に対する意欲

(1) 結婚に対する意欲

「いずれ結婚するつもり」との回答は、男女ともに前回より上回る結果となった。

男女、年齢別「いずれ結婚するつもり」と回答した独身者の割合

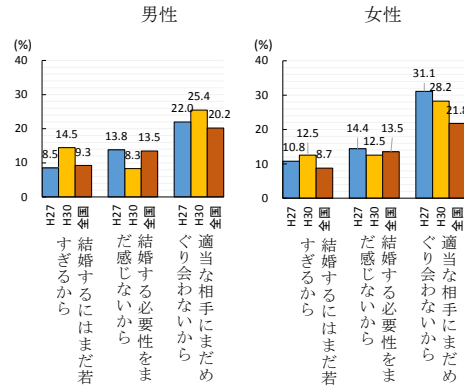


独身の理由・結婚の利点

(2) -1 独身でいる理由

独身でいる最大の理由では、「適当な相手にまだめぐり合わないから」が男女ともに最も高い。また「結婚するにはまだ若すぎるから」は前回より上回る結果となった。

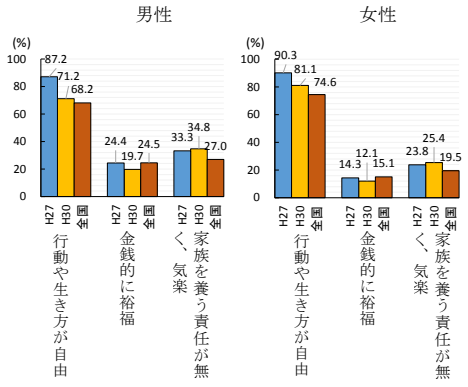
前回、全国との男女別独身でいる最大の理由割合



(2) -2 独身生活の利点

独身生活の利点は、男女ともに「行動や生き方が自由」がもっとも高いが前回より減少の傾向がみられ、「金銭的に裕福」は全国よりも3~4%下がる結果となった。

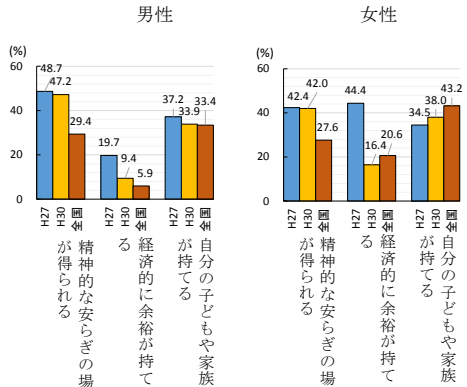
前回、全国との男女別独身生活の利点の内容割合



(2) -3 結婚の利点があると考えている内容

結婚の利点があると回答した内容を比べると、男女ともに「精神的な安らぎの場が得られる」との回答が高く、「経済的に余裕が持てる」は前回より大きく後退した。

前回、全国との男女別結婚に利点があると回答した内容割合

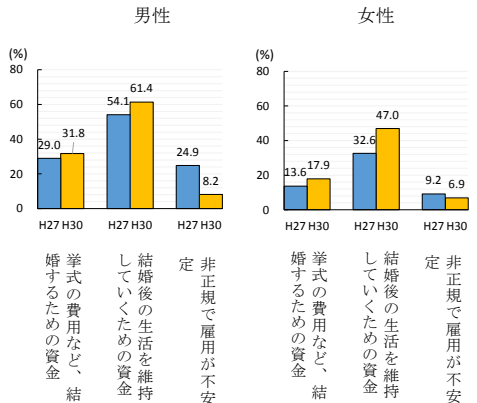


結婚へのハードル

(3) -1 結婚への障害内容

結婚への障害で具体的内容は、男女とも「結婚後の生活を維持していくための資金」が最も高く、男性で「非正規で雇用が不安定」が大きく下がる結果となった。

結婚に障害があると回答した内容割合

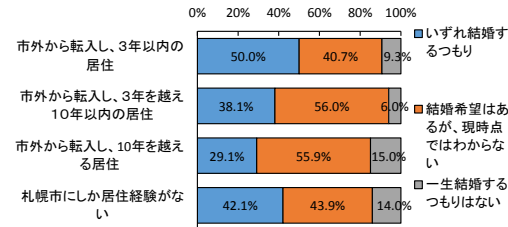


札幌での居住期間と結婚に関する考え

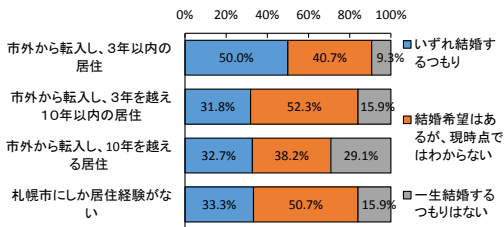
(4) -1 居住歴と結婚に関する考え

「札幌市にしか居住経験がない」方で「いずれ結婚するつもり」と回答した割合は、男性の方が女性を上回る結果となった。また、「市外から転入し、10年を越える居住」の方では、「結婚希望はあるが、現時点ではわからない」と回答した割合が、男性の方が女性を大きく上回る結果であった。

居住歴×結婚に関する考え(男性)



居住歴×結婚に関する考え(女性)

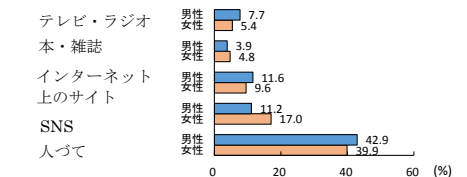


結婚観に対する影響

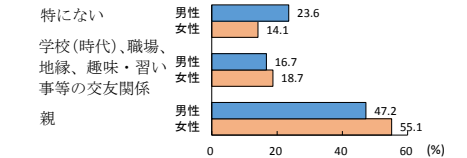
(5) 結婚観に対する影響

結婚観に関する回答では、影響を与える情報の入手方法は「人づて」が最も高く、影響を与える存在は「親」が高かった。インターネットやSNSを合わせた割合は、テレビ・ラジオや本・雑誌を合わせた割合より倍くらいの結果であった。

結婚観に影響を与える情報の入手方法



結婚観に影響を与える存在(人)

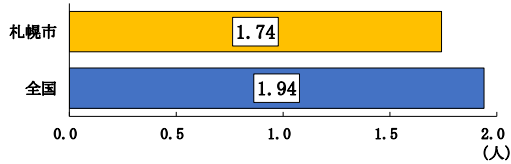


夫婦の出生力

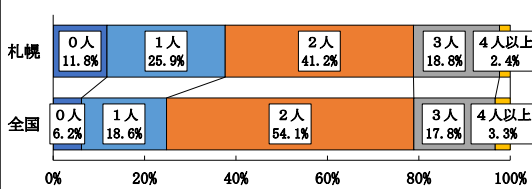
(6) 完結出生児数

夫婦の最終的な平均出生子ども数である完結出生児数は、札幌市は1.74人で、全国の1.94人を下回る。完結出生児数の人数別割合を全国と比べると、札幌は0人、1人、3人が高い結果となった。

札幌市及び全国の完結出生児数



札幌市及び全国の女性の出生子ども数の人数別割合

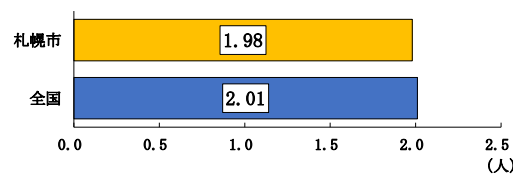


子ども数についての考え方

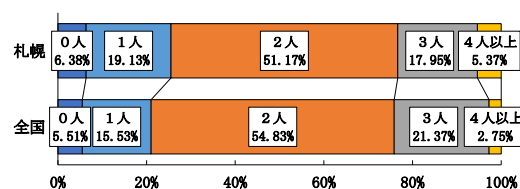
(7) -1 予定子ども数

夫婦が実際に持つつもりの子どもの数(予定子ども数)は、札幌市は1.98人で、全国の2.01人を下回る。予定子ども数の人数別割合を全国と比べると、0人、1人、4人以上が高い結果となった。

札幌市及び全国の女性の平均予定子ども数



札幌市及び全国の女性の予定子ども数の人数別割合

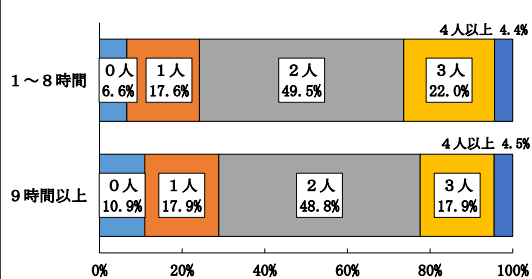


子ども数についての考え方 つづき

(7) -4 男性の労働時間からみた予定子ども数

働いている初婚の男性の予定子ども数については、残業を含む1日の労働時間が「9時間以上」の場合は、労働時間が「1～8時間」の場合に比べて「0人」の割合が増えていることから、労働時間が多くなることにより子どもを持つ数が少なくなる傾向があった。

労働時間と予定子ども数の人数別割合 (男性)

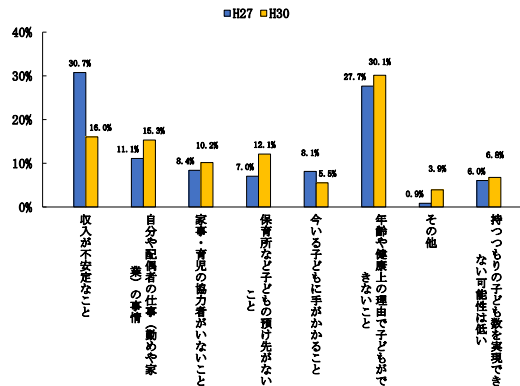


予定子ども数を実現できない場合の理由

(8) 予定子ども数を実現出来ない理由 (H27との比較)

平成27年度の調査結果と比べて、男女ともに「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」などの割合が増加している。また、前回で高い割合を占めていた「収入が不安定なこと」が減少し、全体的に個人や環境などの要因に関する割合が増加している傾向があった。

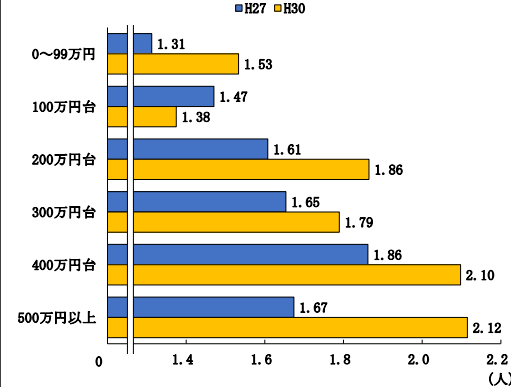
予定子ども数を実現できない場合の理由別割合 (男女：複数回答)



(7) -2 夫の収入からみた予定子ども数 (H27との比較)

平成27年度の調査結果と比べて、全体的に予定子ども数の割合が大きくなる傾向があった。また、「200万円台」を境に、予定子ども数に大きく差が見られ、「400～500万円以上」では、2人を超える結果となった。

夫の年収別既婚女性の予定子ども数



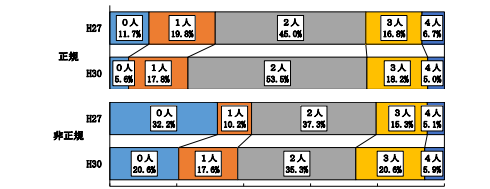
(7) -3 夫の雇用形態からみた予定子ども数 (H27との比較)

雇用形態別の傾向に大きな変化は見られなかったが、予定子ども数は平成27年度の調査結果と比べて、0.2%ほど増加、人数別割合についても「0人」の割合が減少し、予定子ども数が増加していた。

正規・非正規既婚女性の予定子ども数



正規・非正規予定子ども数の人数別割合

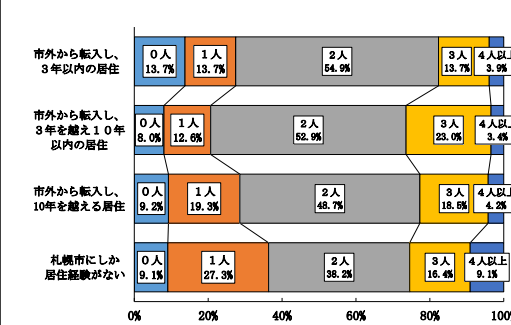


札幌での居住期間と予定子ども数

(9) 札幌市に居住する期間からみた予定子ども数

札幌市に居住する年数から予定子ども数を全体的に見ると、男女ともに「2人」の割合が高い結果となった。居住年数別での子ども数の割合から見ると、市外から転入し3年～10年以内の場合は比較的「2人」、「3人」の割合が高いが、10年を越える場合や札幌市のみでの居住であると、予定子ども数は「1人」、「2人」の割合が高くなる傾向があった。また、市外からの転入をみると、女性は男性に比べて1人以上の回答割合が高い傾向にあった。

札幌市での居住期間と最終的な子ども数の人数別割合 (男性)



札幌市での居住期間と最終的な子ども数の人数別割合 (女性)

